



おごおり

第421号

日本郵趣協会 小郡支部

第35巻 第4号 2025. 4. 1



富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より
凱風快晴



国際文通週間
INTERNATIONAL LETTER-WRITING WEEK



FIRST DAY OF ISSUE



富士山が描かれた絵画切手で葛飾北斎の「富嶽三十六景」・安藤広重の「名所江戸百景」等の作品をリーフに整理した作品を展示しました。



絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

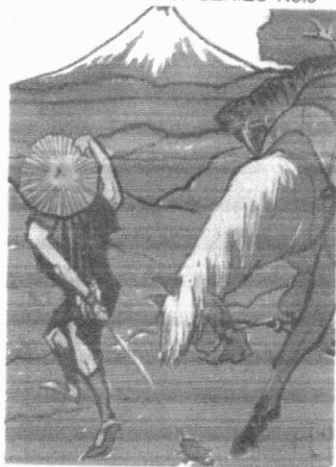
武州千住

北斎の“武州千住”はこの宿はずれから荒川をへだてて富士を見る図である。手前の堀の土手には二人の男が釣りを楽しんでいる。そのうしろの水門の前に馬と馬子。静かな水郷風景である。草を積んだ疲れた馬は首うなだれてこの堤をとおりかかる。首をあげた馬子の目に、富士が突然美しい姿をあらわす。釣人の一人も、竿を忘れて同じように富士を見ている。のどかな水郷風景をたてによぎるものは水門の柱のかけからのぞいている。

北斎一流の構図のとり方である。荒川の水も暗く、夕暮を暗示するかのようである。



馬と文化シリーズ第5集
HORSES IN ART SERIES NO.5





富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

山下白雨

通常“凱風快晴”と共に赤富士の名によって知られ、三役の一枚である。題名に山下白雨とあるから、富士の裾野は肺然と夏の雨が降っているのであろう。ただ富士の下部を暗かつ色とし、はげしい雪のいなずまを描いて白雨を暗示させようとする。

雲上の富士は下界の激しさを知らぬ顔に静かな姿を見せているが、この象徴的手法は、頂上の赤富士の印象をいっそう強めている。山のかなたにわき上がった雷雲も、夏の日の印象を強烈に表現している。“凱風快晴”を「静」なる富士とすれば、これは山の「動」なる姿であろう。



北斎100年祭記念(切手趣味週間の小型シートに赤紫加刷)



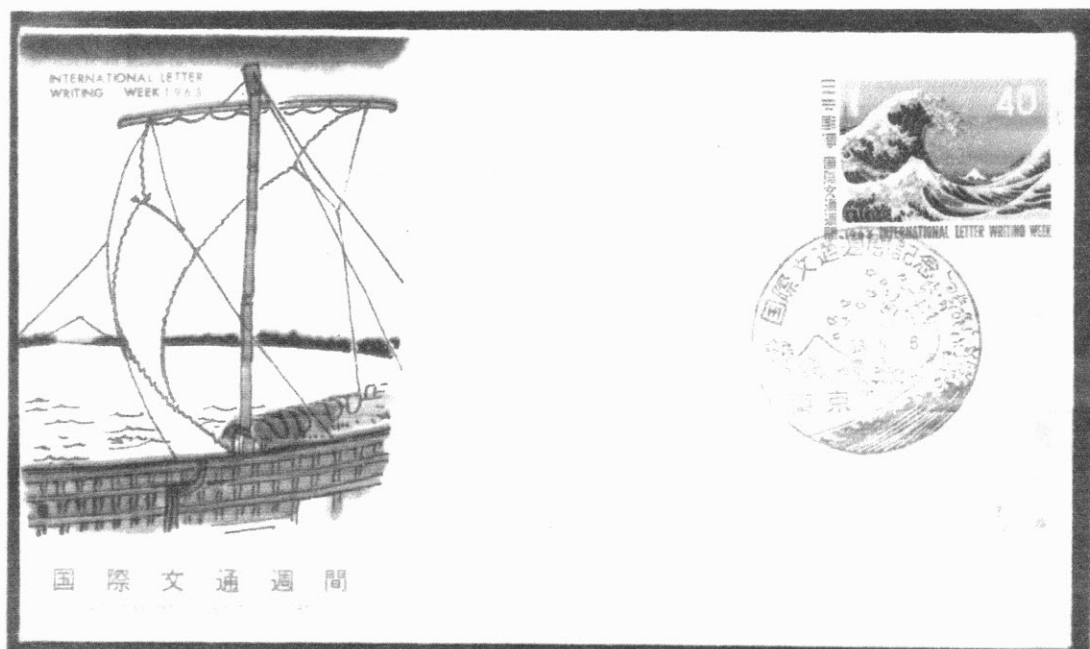
富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

葛飾北斎画：富嶽三十六景より

神奈川沖浪裏

富嶽三十六景組物中、屈指の名作といわれ、二枚の赤富士と共に三役に擬せられている。船を頭からひとのみにするばかりに大きくくずれおちる波頭、その波の間から富士は静かに顔をのぞかせる。動と静とのみごとな対比である。この奇抜で思い切った構成はいかにも北斎らしく、彼にしてはじめて考え得る構成であろう。



国際文通過間記念(初日カバー・38. 10. 6, 東京)



富士山・Mt. FUJI

安藤広重画「名所江戸百景」より



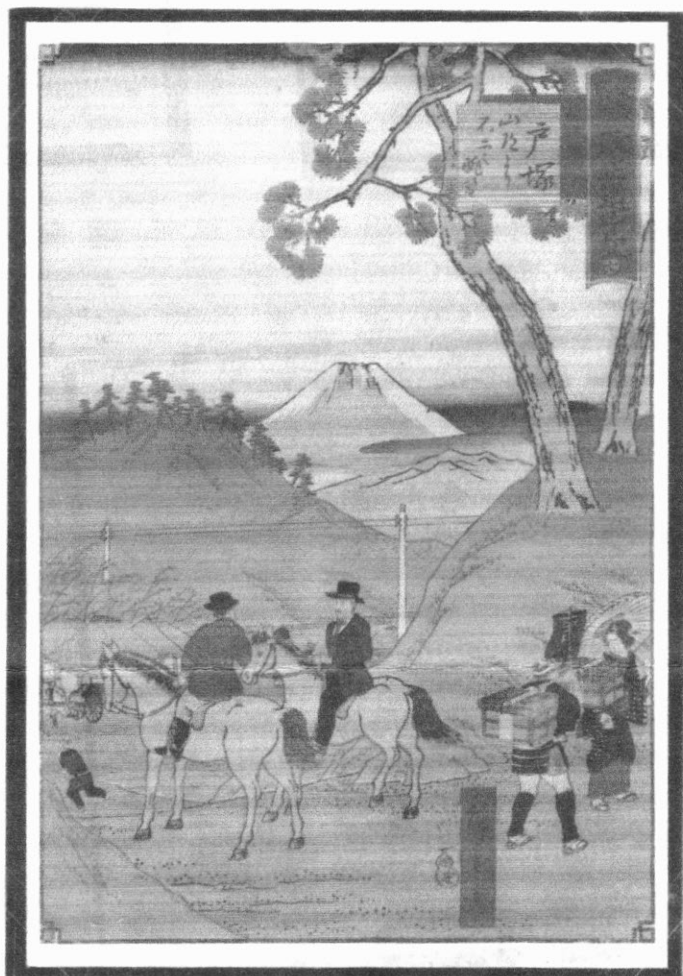
水道橋駿河台



八つ見のはし



深川万年橋



「東海名所改正道中記」戸塚 山道より不二の眺望

富士山・Mt. FUJI

絵画切手の題材となった富士山

田能村竹田画(1777年~1835年):富士図・雪村周継画(~1585年)画:松鷹図



横山大観画:朝陽靈峰・五姓田義松画:田子之浦

